

第2回インクルーシブ教育講演会

12月14日 県立総合教育センターの高木指導主事、横道指導主事をお招きし、1学年・2学年を対象に「共生社会」や「インクルーシブ教育」についてご講演をいただきました。また、生徒は、高齢者体験と妊婦体験を行い、他者の視点を持つことの大切さや、他者を思いやる想像力を持つことの重要性を考えました。

生徒の考え（抜粋）

○障害者に対して普通の人がかべを立てないで積極的に障害者と関われば多様性の実現に一步近づくと感じ、この授業を受けて考え方も少しかわったし、自分もかべをおかずに積極的に障害者と関わろうと思いました。

○お互いが思いやりを持つためには一人一人相手の立場や第三者からの立場を考えて行動をした方が良いと思いました。また、相手の言ったことをすぐ否定するのではなく、共感していくことが大切だとわかりました。

○お互いを思い合い、認め合うためには、決めつけたり自分自身の勝手な思い込みで人を判断しないことが重要だと思いました。自分の見えているものや自分の考えがすべて正しいわけではなく、人それぞれ見え方、感じ方が違うので、自分の考えばかりを正しいと正当化せず、ほかの人の考えを否定せず、そういう考え方もあるのだなと認めることが必要なんだなと思いました。11日と14日の話を聞いていく中で自分にも思い込みや決めつけた考え方があるなと感じました。こういったものは今まで生きてきた中でそなわっていったもので、急に変えるのは難しいかもしれないけれど、少しずつ考えを変えていきたいなと思いました。

○お互いを認め合い、尊重し合えるためには、まず「自分が一番」「自分の意見がすべて正しい」と思わないことだと思う。自分が歩んできた道があり、他人の考えなどを理解する事が難しいと思うけど、人間みんなそれぞれ違う考えや意見を持っていて、自分の考えを他人に押し付けるようなことはしないようにするのが大切だと思う。



